

2019年度自己点検・評価結果に係る外部評価委員への意見聴取結果について

【質問1】

本学はアドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜を実施し、2018年度以降、2020年度まで3カ年度連続で定員を上回る入学者が確保できました。このうち、小論文・面接によって合否を判定するAO入試・推薦入試経由の入学者は2020年度入学者の約60%を占めており、逆に学力検査が中心となる一般入試・センター利用入試経由の入学者は全体の約36%程度にとどまっています。本学のアドミッション・ポリシーに鑑みたとき、この「AO・推薦6割」という比率を今後どのように管理していくべきか（増大／維持／低減...）について、ご意見をお聞かせください。

入試種別	試験科目等	入学者数
【早期入試】AO入試	作文・面接・調査書	53
【早期入試】推薦入試（指定校推薦等）	小論文・面接・調査書（自己推薦制は面接のみ）	71
一般入試（スカラシップ入試含む）	・外国語（英語） ・国語、地歴公民のうちから1～2科目を選択	53
大学入試センター利用入試	・外国語 ・国語、地歴公民、数学から1科目を選択	22
社会人特別入試	小論文、面接	2
外国人留学生特別入試	小論文、面接	8
総合計		209

船橋修一 九州教具(株)代表取締役社長	<p>少子化の状況下でこのような比率になることは致し方ない。</p> <p>ただ、ひとつ気がかりであるのは、多様な入学試験を実施することによる教職員の負担増である。九州教具における入社採用において最も重要視しているのは、「なぜ」という疑問を持つことはできるか否か。つまり、何をしてきたのかを問うのではなく、なぜそれを行うのかという主体的な行動の理由を受験者が明確に持っているのかを面接時には確認をしている。そのために、学歴や成績以上に面接時の返答を重視している。したがって、面接をする側の負担は非常に大きく、この点が大学入試の面接時にも危惧される点である。</p> <p>また、企業側から大学側に求める人材は、先に触れたような「なぜ」という疑問を持つことができる人であるので、大学の教育においては、問題を発見する能力を養って欲しい、その意味でも入試の段階でそういう観点を導入する必要があるのではないかと。</p>
相川節子 時津町教育長	<p>優秀な人材の確保という観点から、現状の管理のあり方でよいと思われる。というのも、早期入試の場合は面接以外にも、受験生に対してまとまった文章を書かせることが課されているが、これは人材育成の面から極めて重要な点であり、総合的な人間力を見つけられるか否かを判定する現在の入試方法に賛成するからである。</p> <p>また、入試制度の変革に伴い、受験生がその不安感を解消する意味で、早期入試を選択することは至極もつともなことであるので、今後のこれを継続するべきだと思う。</p> <p>そのためにも、早期入試の試験のあり方を検証し続ける必要があり、また入学後の学生のケアも重要な課題となってくる。</p>
上藪恒太郎 長崎総合科学大学教授	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者が入学定員を上回るとのこと、長崎外国語大学の方向が広く受け入れられている証で、結構なことだと存じます。逆に、文部科学省が定員の1割増程度の入学者でなくてもいいのか、注意を受けるだろうと案じるほどです。 ・AO入試・推薦入試経由の入学者数はその時々で変わるとは、アドミッション・ポリシーによって特色を表に出しての入試では、6割もありうると思います。

【質問2】

本学はカリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程の編成を行うにあたり、2019年度の入学者から、上記の「Gaidai プログラム科目群」の選択必修を義務付け、卒業後の就業に求められる実践的問題解決能力を育成しようと考えています。本「Gaidai プログラム科目群」の科目構成（下表の通り）、本プログラムで修得すべき単位数（卒業単位124単位以上のうち6単位以上）、履修の時期（2年次～4年次まで）等が適切かについて、ご意見をお聞かせください。

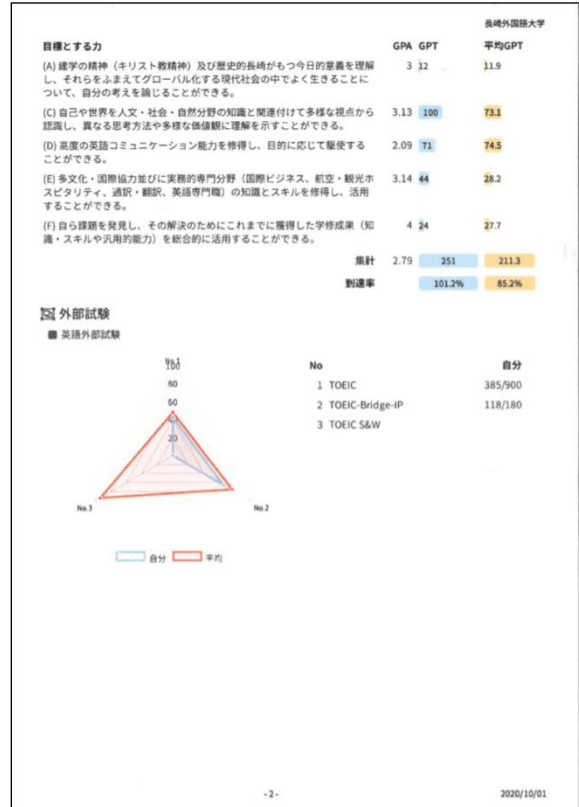
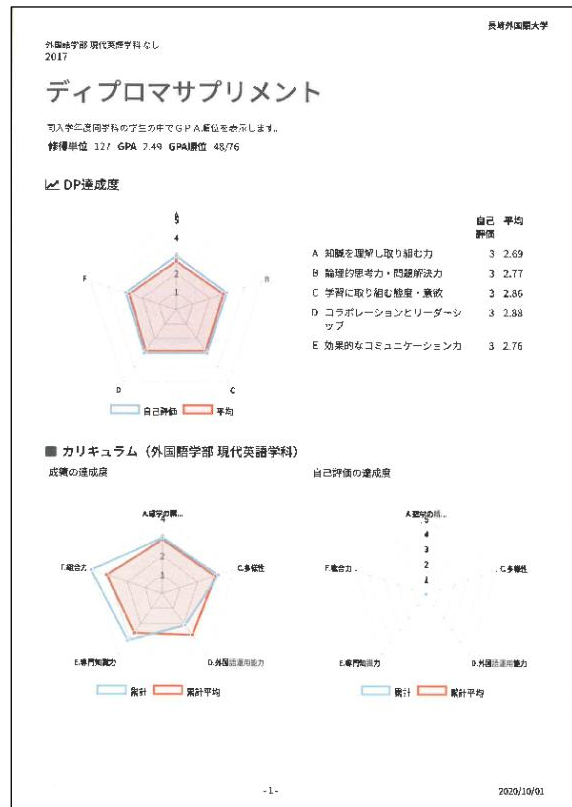
科目名	単位数
海外留学事前研究	2
海外留学事後実習	1
海外語学研修 I～IV	各2
海外文化研修 I～IV	各2
海外インターンシップ I～IV	各2
ボランティア活動 I～IV	各1
インターンシップ	2まで
海外自由研究 I	2
海外自由研究 II	2
Gaidai プロジェクト I	8まで
Gaidai プロジェクト II	8まで
卒業研究	8

<p>船橋修一 九州教具(株)代表取締役社長</p>	<p>このような科目があることはよいことだと思う。というのも、企業ではプレゼンテーションの能力が問われるので、大学でこのような形でその訓練しておくのは重要。せっかく素晴らしい内容であるとしても、それを伝えられなければ意味がないので、いかにうまく説明することができるのかは社会に出て最も求められるスキルのひとつである。</p> <p>さらに、九州教具の中では、全く関連のないことを結びつけられる能力を「教養」と呼んでいる。こうした発想から様々なアイデアを出すことが大変に重要である。そのためにも、このような科目でいわゆる座学とは違った形での学修ができることは有益だと思われる。</p>
<p>相川節子 時津町教育長</p>	<p>こうした授業を選択必修化することは非常によいことだと思う。特に、PBL型の授業は人材育成の観点から重要であると思われる。</p> <p>今後、海外へ留学をする日本人学生が日本のことをしっかり学べるような機会の創設を期待する。歴史や文化だけでなく、社会的な問題についてしっかりと知見を持って国際交流を行ってほしい。</p> <p>また地域の問題解決については、ぜひとも時津町にかかわる問題も取り上げて欲しい。</p>
<p>上蘭恒太郎 長崎総合科学大学教授</p>	<p>・海外語学研修、海外インターンシップ、Gaidai プロジェクトなど、アドミッション・ポリシーに沿う魅力的なカリキュラムであり、身につけさせたいコンピテンシーを明確にしておけば、学生にとって魅力また励みになると存じます。例えば、教員の手はかかりますが、プロジェクト学習は知を総合する点で実践的課題解決能力を育むことが小学校・中学校でも知られています。</p>

【質問3】

本学のディプロマ・サプリメントに係り、今後これが学生を採用する企業等にとって、より有益な情報資料となるためには、上記諸項目のほかに、どのような情報を追記すればよろしいでしょうか（指導担当教員のコメントや、学生の自由記述欄の追加等が想定されます）。

また、学生を採用する企業・団体としての立場から、ディプロマ・サプリメント発行の取組みそれ自体についてご意見をお聞かせください。



船橋修一
九州教具(株)代表取締役社長

少なくとも九州教具としては有益であると考えている。様々なスキルを数値化すること、また学生の学修履歴が一瞥して理解できることは採用側にとっても重要なことであるから。
しかし、こうした動きが一般的とまではまだ言えない状況にある。その意味でも大学から企業側への働きかけは重要となるだろう。

相川節子
時津町教育長

非常に有益であると思う。
時津町では採用試験の際に筆記試験の結果を観点ごとにポイント化し、それをレーダーチャートにして面接時の資料としている。これにより、いずれかの分野に偏らない人材を見極めるために有用であるから。

上蘭恒太郎
長崎総合科学大学教授

・ディプロマ・サプリメントは、多様な角度から人物を説明する資料として有効だと思います。その際、小生の自己肯定感の研究から言えるのですが、自己評価の記入にあたって、コンペテンシーに優れた学生が目標の高さによって自己評価が低くなる、またその逆ケースがあるので、記入の際の支援を組み込まれるといいと思います。教員の支援をまた、教員のコメントとして、いいところを褒める形で付け加えれば、対話的に書き加えることができて労力も少なく、外部の目を加えた評価として妥当性・信頼性を増すでしょう。

【質問4】

下記の大学内クラスター発生防止措置の効果もあつてか、本学では現在までクラスターの発生はもとより、学生・教職員の感染者の発生も抑えられています。

一方で、学生の自由な課外活動及び施設利用の制限が長期化することは学生の健康保全や厚生補導の観点からも望ましいものではなく、学外の方への施設利用禁止措置も、大学が果たすべき社会貢献機能の一部を全うできていないと見ることができ、感染発生の状況次第では速やかに改善すべきであると考えます。これらの点について、本学の既往の対応についての評価、及び今後の対応方針についてのご意見をお聞かせください。

- | | |
|-------------------|--|
| ①学生の体育施設・屋内施設利用禁止 | (第1次：2020年4月9日～2020年5月25日)
(第2次：2020年8月6日以降、現在まで) |
| ②学生のクラブ・サークル活動禁止 | (第1次：2020年度開始時～2020年6月8日)
(第2次：2020年8月6日以降、現在まで) |
| ③学外者への体育施設貸出禁止 | (2020年3月5日以降、現在まで) |
| ④国際寮への部外者立入り禁止 | (2020年3月9日以降、現在まで) |

<p>船橋修一 九州教具(株)代表取締役社長</p>	<p>最も重要なのは「シミュレーション」を行うこと。たとえば、状況を段階別に整理し、そのフェーズごとにどのような対応を行うのか、また人的配置はどのようにするのかをあらかじめ検討しておくことが何よりも大事。またシミュレーションを行うことで、平時の業務における問題点を発見することもできるという観点からも実施しておくべきである。</p>
<p>相川節子 時津町教育長</p>	<p>地域住民へのサービスという観点から施設開放はよいことであると思う。時津町では、様々な施設の開放に際し、利用者の体調管理、利用時のこまめな手指消毒や換気などを強く勧めている。また、利用時間の制限等も実施している(時津町図書館の利用は1回30分以内)。 今後は新しい行動様式を遵守し、これを地道に継続していくことが対策として最も有効だと考える。</p>
<p>上藺恒太郎 長崎総合科学大学教授</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎においてさほど広がっていないとはいえ、長崎外国語大学においてCOVID-19が発生していない点から、対応は妥当だということでしょう。 ・対面授業を基本とし、必要に応じてまた必要に備えてオンライン授業の態勢をとっておく備えをしておくことになろうと思います。 ・学外への施設貸し出しは、もうしばらくやむを得ないのではないのでしょうか。

以上